

## 商 法

平成23年	<p>○招集通知漏れのある取締役会決議の効力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別利害関係取締役への該当性</li> <li>・ 特別利害関係取締役が審議に参加することの可否</li> <li>・ 招集通知を欠く取締役が取締役会に出席しても決議に影響がないといえる特段の事情の当てはめ</li> </ul> <p>○株主総会決議取消しの訴え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会社の承認を経ない譲渡制限株式の譲渡の効力</li> <li>・ みなし承認</li> <li>・ 名義書換えの不当拒絶</li> </ul>
平成24年	<p>○利益相反取引</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直接利益相反取引の認定</li> <li>・ 取締役会の承認を経ない直接利益相反取引の効力（絶対的無効）</li> </ul> <p>○「重要な財産の譲受け」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「重要な財産の譲受け」の認定</li> <li>・ 取締役会の承認を経ない「重要な財産の譲受け」の効力（民法93条1項但書類推適用）</li> </ul> <p>○売買契約における目的物の品質の契約不適合を理由とする債務不履行解除</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商人間の売買契約における検査・通知義務（商法526条）</li> </ul> <p>○手形金支払請求</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「債務者ヲ害スルコトヲ知リテ」の意味（手形法17条）</li> </ul>
平成25年	<p>○株主総会における取締役の説明義務（会社法314条）</p> <p>○会計帳簿閲覧請求</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実質的競争関係を理由とする3号拒否事由</li> </ul> <p>○不当な対価による株式交換の争い方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株主総会決議取消しの訴え（特別利害関係株主の議決権行使による3号取消事由）</li> <li>・ 株式交換の差止請求（交換対価の著しい不当性が差止事由に当たるか）</li> <li>・ 反対株主の株式買取請求権</li> <li>・ 株式交換無効の訴え（交換対価の著しい不当性が無効原因に当たるか、承認決議に3号取消事由があることを無効原因として主張することの可否）</li> <li>・ 取締役の損害賠償責任（会社法429条1項）</li> </ul>
平成26年	<p>○利益相反取引</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直接取引該当性</li> <li>・ 間接取引該当性</li> <li>・ 特別利害関係取締役による承認議案についての議決権行使</li> <li>・ 「重要な事実」の開示</li> <li>・ 瑕疵ある取締役会決議の効力</li> <li>・ 取締役会決議に瑕疵（無効原因）がある場合における間接取引の効力（相対的無効説）</li> </ul> <p>○新株発行無効の訴え</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有利発行（資金調達目的）</li> <li>・取締役会決議を経ない有利発行の効力（公開会社）</li> </ul>
平成27年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○取締役の対第三者責任（会社法429条1項） <ul style="list-style-type: none"> <li>・会社を名宛人とする法令に違反することも法令遵守義務違反として任務懈怠に当たるか（会社法355条の「法令」には会社を名宛人とする法令も含まれるか）</li> <li>・取締役の監視義務</li> <li>・監視義務違反と損害との間の相当因果関係</li> <li>・間接損害株主も「第三者」（会社法429条1項）に含まれるか</li> </ul> </li> <li>○事業譲渡において譲渡会社の名称を続用している譲受会社の責任（会社法22条1項類推適用） <ul style="list-style-type: none"> <li>・名称続用の場合における会社法22条1項類推適用の可否</li> <li>・「譲渡会社の事業によって生じた債務」の意味</li> </ul> </li> </ul>
平成28年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他人の手形振出 <ul style="list-style-type: none"> <li>・手形署名の代行による手形行為の効力</li> <li>・被偽造者の手形債務の負担の有無（上記の手形行為を無効と解した場合）</li> </ul> </li> <li>○準共有株式の権利行使 <ul style="list-style-type: none"> <li>・準共有株主が株主として会社の組織に関する訴えを提起する場合にも会社法106条が適用されるか</li> <li>・会社法106条但書の同意がある場合</li> </ul> </li> <li>○吸収合併の効力発生前後における争い方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・合併承認決議の取消しの訴え</li> <li>・合併差止訴訟</li> <li>・合併無効の訴え</li> </ul> </li> </ul>
平成29年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○債務の株式化（デッド・エクイティ・スワップ）の手続 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出資履行債務と金銭債権の相殺（会社側からの相殺）の可否</li> </ul> </li> <li>○見せ金による仮装払込み <ul style="list-style-type: none"> <li>・見せ金による「払込みの仮装」の判断方法</li> <li>・仮装払込みに関する引受人・取締役の責任（会社法213条の2、3）</li> <li>・払込みが仮装された株式に係る権利行使の可否（会社法209条2項、3項）</li> <li>・払込みが仮装された株式の効力</li> </ul> </li> </ul>
平成30年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○株主提案権 <ul style="list-style-type: none"> <li>・株主の議題提案権（会社法303条）</li> <li>・株主の議案要領通知請求権（会社法305条）</li> <li>・株主提案権における議決権保有要件の判断基準時（権利行使時説）</li> </ul> </li> <li>○間接利益相反取引 <ul style="list-style-type: none"> <li>・間接利益相反取引の認定</li> <li>・任務懈怠の推定（会社法423条3項各号） <ul style="list-style-type: none"> <li>→監査等委員会設置会社における例外（会社法423条4項）の適用の有無</li> </ul> </li> <li>・利益相反取引における取締役の「任務」の内容（公正な取引条件説）</li> <li>・利益相反取引における免責事由の証明による免責の可否（会社法428条1項）</li> <li>・定款に基づく責任限定契約（会社法427）による責任の限定の可否</li> </ul> </li> </ul>

<p>令和1年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○瑕疵ある取締役会決議の効力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・決議事項として予定されていなかった事項について決議することの可否</li> <li>・取締役解任を目的とする臨時株主総会の開催を内容とする議案について、解任対象取締役は特別利害関係取締役に当たるか（代表取締役が自己の解釈議案について特別利害関係取締役に当たると解した判例の射程）</li> <li>・招集通知漏れのある取締役会決議の効力</li> </ul> </li> <li>○株主総会決議取消しの訴え <ul style="list-style-type: none"> <li>・準共有株式の権利行使の要件（会社法106条）</li> <li>・吸収分割による譲渡制限株式の譲渡にも定款による譲渡制限に関する会社法の規律が適用されるか</li> </ul> </li> </ul>
<p>令和2年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多重代表訴訟（子会社の取締役の直接取引により子会社に生じた損害について、親会社株主が子会社の取締役の損害賠償責任を追及する場合） <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接利益相反取引の認定</li> <li>・任務懈怠の推定（会社法423条3項各号） <ul style="list-style-type: none"> <li>→監査等委員会設置会社における例外（会社法423条4項）の適用の有無</li> </ul> </li> <li>・利益相反取引における取締役の「任務」の内容（公正な取引条件説）</li> <li>・利益相反取引における免責事由の証明による免責の可否（会社法428条1項）</li> <li>・責任免除の要件（会社法847条の3第10項）</li> </ul> </li> <li>○株主代表訴訟（子会社の取締役の直接取引により親会社に生じた損害について、親会社株主が親会社の取締役の損害賠償責任を追及する場合） <ul style="list-style-type: none"> <li>・親会社取締役の子会社取締役の職務執行についての監視・監督義務</li> </ul> </li> <li>○特定の株主から合意により有償で自己株式を取得する場合の手続</li> <li>○重要な子会社の株式を譲渡する場合の手続</li> <li>○譲渡制限株式を譲渡する場合の手続 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人会社における取締役会の承認の要否</li> </ul> </li> </ul>
<p>令和3年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○適法な選定手続を経ていない登記簿上の代表取締役が行った取引行為の効力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・取締役会と並んで株主総会でも代表取締役を選定できる旨の定款の定めの有効性</li> <li>・適法な代表取締役の選定手続の有無</li> <li>・会社法908条2項の「善意の第三者」の意味（権利外観法理説からは、不実登記を信じたことを要する）</li> <li>・表見代表取締役（会社法354条）</li> </ul> </li> <li>○会社の内規に従って支給された取締役の退職慰労金 <ul style="list-style-type: none"> <li>・取締役の退職慰労金も「報酬等」として取締役の報酬規制に服するか</li> <li>・退職慰労金に関する内規が存在する場合において具体的な退職慰労金が発生するための条件</li> <li>・退職慰労金の不当利得返還請求が信義則違反・権利濫用と評価される場合</li> </ul> </li> </ul>
<p>令和4年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利益供与における取締役と相手方の責任を追及する株主代表訴訟 <ul style="list-style-type: none"> <li>・利益供与の認定</li> <li>・取締役の責任（会社法120条4項、会社法423条1項）</li> <li>・相手方の返還義務（会社法120条3項）</li> </ul> </li> <li>○監査役設置会社において株主代表訴訟を提起する際の提訴請求の相手方</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 監査役が取締役に就任した場合には監査役の地位を辞任したものとみなされると解する判例</li><li>・ 監査役の兼任禁止規定の趣旨に抵触する監査役権利義務者に対する提訴請求の適法性</li></ul>
令和5年	<ul style="list-style-type: none"><li>○株主総会決議の取消しの訴え<ul style="list-style-type: none"><li>・ 議案要領通知請求権（会社法305条）</li><li>・ 議決権行使の代理人資格を株主に限定する定款規定</li></ul></li><li>○新株発行無効の訴え<ul style="list-style-type: none"><li>・ 不公正発行</li><li>・ 有利発行</li><li>・ 募集事項の通知・広告の欠缺</li></ul></li></ul>